



よみがえれ「屋形島イモ」

屋形島イモの苗を植える生徒たち 佐伯市蒲江の蒲江翔南学園



【佐伯】おおいに在来作物研究会(大分市)の関係者らが4日、佐伯市蒲江沖の屋形島でかつて栽培されていた在来作物「屋形島イモ」(サツマイモ)の復活プロジェクトとして、同市蒲江地域に希少な苗を植え付けた。

最後の栽培者らたどり苗入手

佐伯 蒲江数カ所に植える



屋形島での栽培が途絶え、幻の作物と思われていた屋形島イモの苗

在来作物プロジェクト

在来作物は世代を超えて受け継がれる地域特有品種。屋形島イモは米の取れない同島の主食だったが、時代の流れで栽培する人は減り、近年では目にする機会もなくなった。

きつかけは同会の森田昌孝会長(45)と大分高専准教授Ⅱが在来作物の調査をしたこと。今年2月、屋形島イモを調べ始め、蒲江出身の会社員中村貴敏さん(53)と大分市角子原Ⅱに協力を仰いだ。

中村さんのいところ、最後の栽培者だった浜野謙三さん(71)と連絡を取ったが、島でのイモ栽培は既に途絶えており、イモは残っていないかった。

絶望的な状況だったものの栽培実績のある佐伯豊南高関係者の情報を頼りに3月上旬、県農林水産研究指導センター(豊後大野市)に確認したところ、栽培保存されていることが判明。各種手続きを踏まえて、苗を分けてもらい、復活プロジェクトにつながった。

(安部亮)



〔問①〕 おおいた在来作物研究会の関係者らが佐伯市蒲江地域に苗を植えた作物は？

〔問②〕 佐伯市蒲江沖の屋形島で、かつて屋形島イモが主食だったのはなぜですか？

〔問③〕 植え付けた苗は順調に栽培できれば、いつごろ収穫できますか？

〔問④〕 地域特有の在来作物がだんだんと栽培されなくなってしまうのはなぜでしょうか。
理由を考えてみましょう。